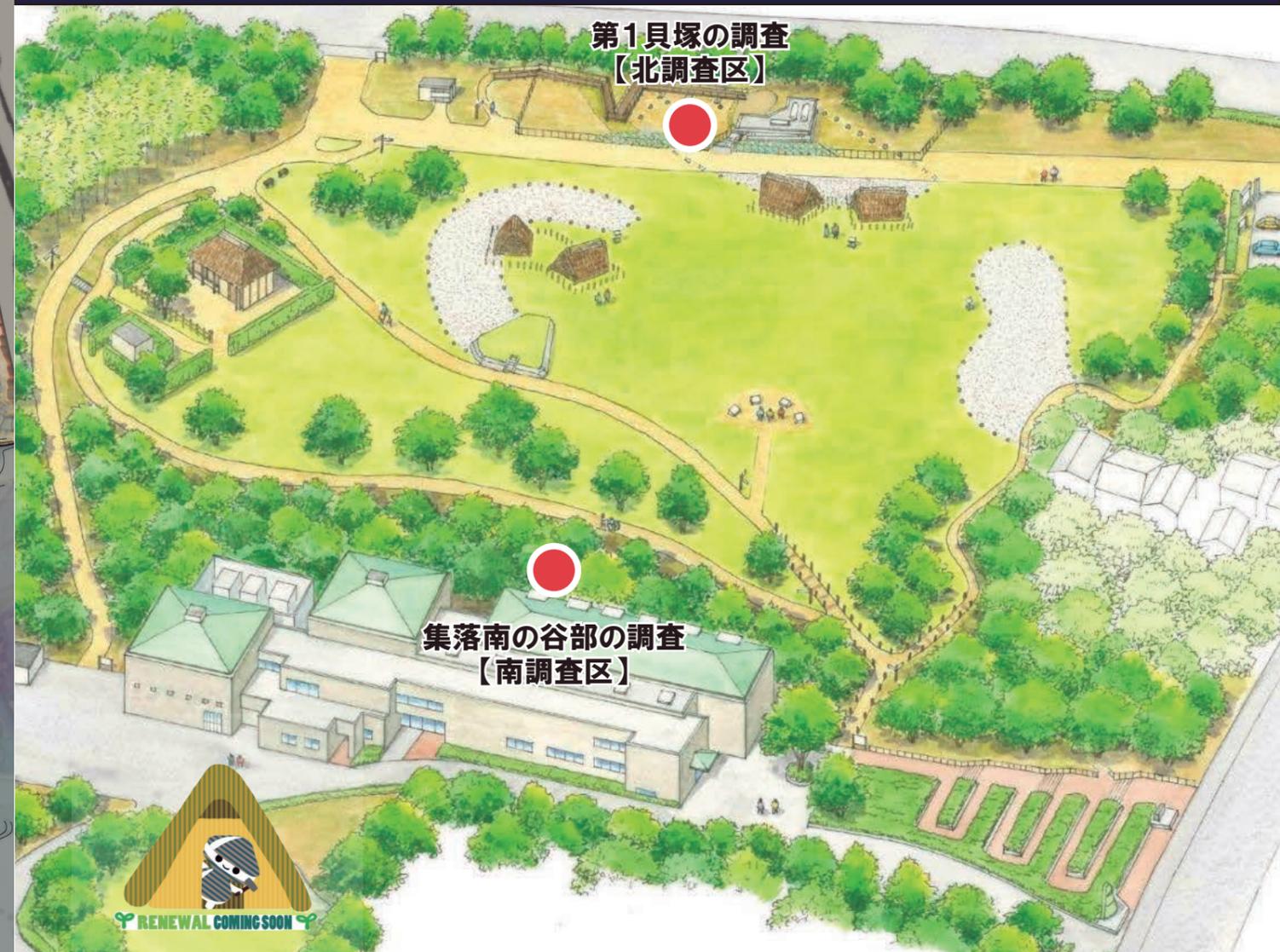




蜷塚遺跡発掘調査（9次調査）

現地説明会資料



令和7年（2025年）9月7日（日）

浜松市文化財課・浜松市博物館

蜷塚遺跡の概要と調査の目的

蜷塚遺跡は、縄文時代後期から晩期（約 4000 年前～ 3000 年前）にかけての集落のあとです。集落を取り囲むように 4 つの貝塚が存在します。建物や墓、土器や石器・骨角器、貝殻や魚・動物の骨から総合的に当時の生活の一端をうかがい知ることができます。貝塚を構成する貝類の約 9 割がヤマトシジミであり、隣接する佐鳴湖との関係性がうかがえます。

今回の調査では令和 6 年度に実施した 8 次調査の成果を踏まえ、第 1 貝塚と呼ばれる集落北側の貝塚の範囲の確認と、水場として利用されていた可能性がある集落南側の谷部分の内容把握を目的として、調査区を設定しました。

蜷塚遺跡におけるこれまでの調査の概要

調査名	期間	内容
1 次調査	昭和 30 年（1955） 12 月 21 日～12 月 25 日	遺跡の編年的研究を目的として行われた貝塚の調査。 貝塚は上下 2 層に大別され、土器も 2 つの時期に区分されました。 石鏃が刺さったシカの骨やヒスイの玉が出土しました。
2 次調査	昭和 31 年（1956） 8 月 11 日～8 月 21 日 補掘 昭和 31 年（1956） 12 月 24 日～12 月 30 日	集落の構造を究明することを目的とした調査。 9 棟の建物跡を確認し、中心に炉をもつ長方形の平地建物であることが判明しました。
3 次調査	昭和 32 年（1957） 8 月 21 日～8 月 31 日 補掘 昭和 33 年（1958） 4 月 8 日～4 月 12 日	集落跡について第 2 次調査の成果を補うことと、土器の年代確認を行うことを目的とした調査。 10 棟以上の建物跡、人骨 20 体分、大珠が出土しました。「シカビット」「イノシシビット」と呼ぶ動物骨の集積を検出しました。さらに、貝塚が 7 つの時期に区分できることを確認しました。
4 次調査	昭和 33 年（1958） 8 月 15 日～8 月 25 日	集落跡や墓地の調査。 建物跡 9 棟以上と、数体分の人骨が見つかりました。
5 次調査	昭和 57 年（1982） 1 月 13 日～2 月 10 日	園路工事に先立つ調査。 遺跡の東限の確認が行われました。
6 次調査	昭和 57 年（1982） 10 月 1 日～12 月 13 日	遺跡東南への古民家移設に関わる調査。 遺跡の分布範囲を確認する調査が行われました。第 4 貝塚や、後期古墳 3 基の存在を確認しました。
7 次調査	令和 5 年（2023） 2 月 6 日～2 月 24 日	史跡の整備基本計画策定にあたり、遺跡の深度等を確認することを目的とした調査（第 2・第 3 貝塚、住居露出展示施設）。 遺跡検出面までの盛土層が非常に浅いこと、過去の調査範囲と捉えていた箇所にも未調査部分が存在することを確認しました。
8 次調査	令和 6 年（2024） 8 月 20 日～8 月 25 日	集落北側の第 1 貝塚と集落南側の谷部の調査。 北調査区では貝層を検出し、従来の想定よりも第 1 貝塚の範囲が西側に広がることが明らかになりました。南調査区では、縄文時代の谷地形が良好な状態で残存していることが明らかになりました。

北調査区（第 1 貝塚西部）の成果

北調査区では、8 次調査で従来の想定よりも西側に第 1 貝塚が広がることが明らかになりました。この成果を踏まえ、今回の調査では貝塚の範囲を確認することを目的に、東西方向に 2 つの調査溝を設定しました。

今回の調査地点は、かつては佐鳴湖へ抜ける小さな谷でしたが、発掘調査や史跡整備が行われる以前は、谷を埋め立てて畑として利用されていました。

調査の結果、厚い造成土の下から、貝殻を多く含む黒色土層を確認しました。第 1 貝塚の及んでいる範囲を発掘調査成果をもとに、より高い精度で把握することができるようになりました。



Fig.1 第 1 貝塚保存施設完成当時

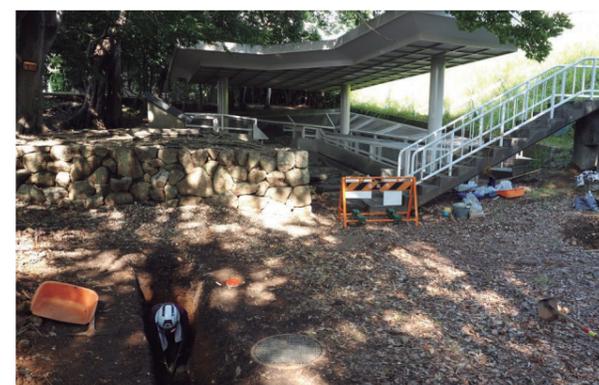


Fig.2 北調査区 調査状況

南調査区（集落南の谷部）の成果

南調査区では、8 次調査で谷部斜面の堆積が良好な状態で保存されていることを確認しました。今回の調査ではより下層の堆積状況の確認を目的とし、8 次調査の調査区よりさらに谷底側（南側）に調査区を拡張しました。現代の造成土の下では、水と有機物を多く含む黒色の土層を確認しました。黒色土層からは縄文土器が出土しています。

縄文時代の集落には、木の実の水さらしや飲み水の確保に利用されたと考えられる水場が伴うことがあります。今回の調査の成果から、蜷塚遺跡の南側の谷は縄文時代には滞水環境にあったと考えられ、水場として利用された可能性が示唆されます。



Fig.3 南調査区 調査状況



Fig.4 南調査区 出土遺物